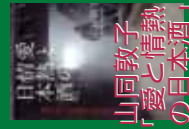


7つの切り口で見た清酒ブランド、218蔵



チャオ！(挨拶) / シーナ・エミリです。今回は、7つの切り口で見た清酒ブランド、218蔵」というタイトル。苦勞してエクセルに入れました。時間かかった～、結構勞作です。各切り口の詳細は4ページに書いてありますが、特徴ある蔵元マップ@2006の感あり、かな。よく見ると、7つの切り口のうち、4つや5つとも丸が付いている蔵元もありますね。

Ciao (〜) from Milan. Sienna is here. The following list is "218 Japanese Sake Breweries with 7 different points of view". Column 1 and 2 are breweries introduced on recently published Sake guide books. For English speakers, "The Book of Sake" is a good one as well as his first book, "The Insider's Guide". Column 3, 4 and 5 are recent Sake groups or school. They are, using yeast taken from various flowers, trying long term aging and returning to wooden vat. Column 6 and 7 are two delegates which concentrate exporting Sake. These 218 seem very active ones among some 2000 Sake breweries existing in Japan.

(Text=Sienna K. Emiri Note, this text is originally made for Kita Sangyo's Mail Magazine issued on Oct. 4, 2006)

所在県 PREF.	ブランド名 BRAND	社名 KURA (Brewery)	最新書籍 BOOK	METHODOLOGY	醸造方法	輸出 WORLD
石川	菊 姫	菊 姫	● Harper 「The Book of Sake」に登場	● 東京農大花酵母研究会(清酒のみ)	● 長期熟成酒研究会	● 日本産清酒輸出機構
石川	福正宗	福光屋	●	●	●	●
石川	竹 葉	数馬酒造	●	●	●	●
石川	宗 玄	宗玄酒造	●	●	●	●
石川	萬歳菜	小瓶酒造店	●	●	●	●
石川	黒 龍	黒龍酒造	●	●	●	●
福井	一本義	一本義久保本店	●	●	●	●
福井	早瀬浦	三宅彦右衛門酒造	●	●	●	●
福井	花 垣	南部酒造場	●	●	●	●
福井	越の磯	越の磯	●	●	●	●
福井	御代櫻	御代櫻酒造	●	●	●	●
福井	天 領	天領酒造	●	●	●	●
福井	大日泉	布屋原酒造場	●	●	●	●
福井	山 車	原田酒造場	●	●	●	●
福井	久寿玉正宗	平瀬酒造店	●	●	●	●
福井	連踏正宗	白木恒助商店	●	●	●	●
福井	花美蔵	白扇酒造	●	●	●	●
福井	醒し人丸平次	萬葉醸造	●	●	●	●
福井	義 俠	山忠本家酒造	●	●	●	●
福井	ねのひ	盛 田	●	●	●	●
福井	小弓鶴	小弓鶴酒造	●	●	●	●
福井	伊勢の白酒	タカハシ酒造	●	●	●	●
福井	妙の華	森善酒造場	●	●	●	●
福井	黒松翁	森本仙右衛門商店	●	●	●	●
福井	松の司	松酒造	●	●	●	●
福井	大治郎	池本酒造	●	●	●	●
福井	琵琶の長寿	浪の言酒造	●	●	●	●
福井	笑四季	笑四季酒造	●	●	●	●
福井	風の森	油長酒造	●	●	●	●
福井	梅乃宿	梅乃宿酒造	●	●	●	●
福井	慶雲長龍	長龍酒造・広陵蔵	●	●	●	●
福井	千 代	千代酒造	●	●	●	●
福井	百楽門	葛城酒造	●	●	●	●
福井	月の桂	増田徳兵衛商店	●	●	●	●
福井	蒼 空	藤岡酒造	●	●	●	●
福井	日出盛	松本酒造	●	●	●	●
福井	玉乃光	玉乃光酒造	●	●	●	●
福井	月桂冠	月桂冠	●	●	●	●
福井	松竹梅	宝酒造	●	●	●	●
福井	神 聖	山本本家	●	●	●	●
福井	秋 鹿	秋鹿酒造	●	●	●	●
福井	利休梅	大門酒造	●	●	●	●
福井	呉 春	呉 春	●	●	●	●

所在県 PREF.	ブランド名 BRAND	社名 KURA (Brewery)	最新書籍 BOOK	METHODOLOGY	醸造方法	輸出 WORLD
北海道	國土無双	高砂酒造	●	●	●	●
北海道	田 酒	西田酒造店	●	●	●	●
青森	豊 丞	三浦酒造	●	●	●	●
青森	菊 駒	八戸酒類	●	●	●	●
岩手	月の輪	月の輪酒造店	●	●	●	●
岩手	南部美人	南部美人	●	●	●	●
岩手	菊の司	菊の司酒造	●	●	●	●
岩手	あさ開	あさ開	●	●	●	●
岩手	春 霞	栗林酒造店	●	●	●	●
岩手	喜久水	喜久水酒造	●	●	●	●
岩手	由利正宗	齋藤酒造店	●	●	●	●
岩手	高清水	秋田酒類製造	●	●	●	●
岩手	爛 漫	秋田銘醸	●	●	●	●
岩手	出羽鶴	秋田清酒	●	●	●	●
岩手	天 寿	天寿酒造	●	●	●	●
岩手	天の戸	浅舞酒造	●	●	●	●
岩手	福乃友	福乃友酒造	●	●	●	●
岩手	太平山	小玉醸造	●	●	●	●
岩手	朝の舞	舞鶴酒造	●	●	●	●
岩手	飛良泉	飛良泉本舗	●	●	●	●
岩手	まんざくの花	日の丸醸造	●	●	●	●
岩手	秀よし	鈴木酒造店	●	●	●	●
岩手	一ノ蔵	一ノ蔵	●	●	●	●
岩手	浦 霞	佐 浦	●	●	●	●
岩手	栗駒山	千田酒造	●	●	●	●
岩手	新澤醸造	新澤醸造店	●	●	●	●
岩手	日高見	平季酒造	●	●	●	●
岩手	乾坤一	大沼酒造店	●	●	●	●
岩手	樽 平	高木酒造	●	●	●	●
岩手	出羽桜	樽平酒造	●	●	●	●
岩手	初 孫	出羽桜酒造	●	●	●	●
岩手	東 光	東北銘醸	●	●	●	●
岩手	くどき上手	小嶋総本店	●	●	●	●
岩手	白露垂珠	亀の井酒造	●	●	●	●
岩手	上喜元	竹の露	●	●	●	●
岩手	栄光富士	酒田酒造	●	●	●	●
岩手	山形正宗	富士酒造	●	●	●	●
岩手	鯉 川	水戸部酒造	●	●	●	●
岩手	東北鼻	鯉川酒造	●	●	●	●
岩手	みちのく六歌仙	高橋酒造店	●	●	●	●
岩手	銀鏡月山	六歌仙	●	●	●	●
岩手	朝日川	月山酒造	●	●	●	●
岩手	一 声	朝日川酒造	●	●	●	●
岩手	設楽酒造	設楽酒造店	●	●	●	●

「7つの切り口」の解説

●▲■切り口1: "The Book of SAKE, A Connoisseur's Guide" by Phillip Harper 2006年6月発行

最近読んだジャパニーズサケの新刊(英文)です。解説によれば、著者のHarperさんは大学卒業後1988年来日、1990年から奈良の酒蔵で働きだし、2001年には南部杜氏の称号を取得。本書を執筆時点で、仕込み14シーズンを経験、(ガイジンなのに)大阪の酒蔵の杜氏!という驚きの経歴の持ち主です。

かく言う私もガイジンですが、日本料理&人肌爛ファン。「ソソジョソコラの日本人(失礼)よりお酒は結構詳しいぞ」を自称しますが、この本では随分、新知識を学びました。通の人(サブタイトルどおりコノサー)も自分の知識をおさらいできます。

以下、原文で引用させていただくと、「アル添」の説明 <alcohol-added sake,,, after WWII, food shortage made necessity,,, but,,, has a crisp, clean finish,,, helped trap volatile aromatics クリスプなフィニッシュ、揮発性の香りを逃がさないのに有用、、、> 「生もと・山麴」の説明 <or a more complex, dense and early set of aromas - yogurt and spice, cloves and nuts ヨーグルト、丁子、ナッツの香り(?)、、、> など、反対論もありそうだが、興味深い。

また tidbits (一口知識、というか、囲み記事) が面白い。たとえば、「清酒の銘柄」の記述。「植物系、動物系(実在と創造) 人名系、地域系、健康・幸運系」と分けてあって、「実在動物系」では <西條鶴、土佐鶴、白鶴、山鶴、紀の鶴、北鹿、秋鹿、春鹿、白鷹、天鷹、金亀、神亀、、、> うーん、よく調べたね!

また、次のような解説も、ガイジンには目新しい。「日本語、a quick language lesson」 <サキと発音する人がいるが、正しい日本語はサケ、、、そもそも日本語はアエイオウをはっきり短く発音し、、、アは Madeira の a、エは Glenfiddich の e、、、> 「Yeast Varieties,,, No.9, No10, No1601, M-310」 <協会酵母1601は新しい酵母で、armor-piercing fragrance - 鎧を貫く(?) 香り、、、>

写真が美しいのも良い。清酒文化を世界にアピールする良書だと思いました。そして、これが本題なのですが、この本のもう一つの面白さは、取り上げてあるお酒の銘柄。50数銘柄について、ソムリエ顔負けの非日本的表現? で印象を書かれています。「ハーバー・ポイント」? をつけられちゃいそう、(ワインの「パーカー・ポイント」の清酒版(-;-) ; ハハハ) なんて想像しちゃいました。

●▲■切り口2: 「愛と情熱の日本酒」山同敦子著 2005年10月発行

次は日本語の本です。焼酎やワインの著作もあり酒類全般に造詣の深い著者が、蔵元を訪問したり、実際にお酒を飲んだりしたうえで、タイトルど

おり「愛と情熱」を実践する清酒を紹介したもの。

思い起こせば、第一次地酒ブームから幾星霜(ナンダカ突然、大上段)その間発刊された蔵元紹介の本、雑誌、ムック誌は星の数ほどあれど、この本は一味違うように思いました。幾星霜、の間に蔵元は随分変わってきた。近年、自身が酒造りを行う若手蔵元、蔵元を渡り歩いて修行する造り手、米つくりから取り組む蔵元、など、新しい動きがある。そんな蔵元を取材し紹介した本です。主要記事で9社、その後に1ページに2社の割付で蔵元とお酒を記載。特徴的なのはとても「マニアック」なこと、いや、マニアも知らない隠れブランドを紹介してる、という感じです。

●▲■切り口3: 「東京農大花酵母研究会」

東京農大の中田教授を中心とした会。なでしこ、しゃくなげ、つる薔薇、コスモスなど、実際の花から得た酵母を使用してお酒を造る蔵元のグループです。この会は共同試飲会を各地で開催するなど活発で、最近随分注目されているよう。単式蒸留焼酎の会員も含まれていますが、今回は清酒の蔵元のみをリストアップしました。

●▲■切り口4: 「長期熟成酒研究会」

この会も活発。日本酒100年貯蔵プロジェクト、をスタートさせたばかり。「貯蔵」清酒の味わいが魅力的なのは、多くの通人が認めるところ。リストを見ると、中堅や小規模な蔵ばかりでなく、大手ブランドの月桂冠と沢の鶴が入っていますね。

●▲■切り口5: 「桶仕込み保存会」

セーラ・カミングスさん(長野の柘一市村酒造場の取締役)が音頭をとってできたグループ。「いまさらおけを考える会」(なんだか面白い名前)として、全国紙で新聞広告を出したり、六本木ヒルズでフォーラムを開いたり、活発な活動をしています。

●▲■切り口6: 日本産清酒輸出機構

●▲■切り口7: 日本酒輸出協会

ここミラノでは飲めるサケブランドは限られているけれど、ロンドンやパリでは日本以上にレアモのブランドが飲めます。アメリカでは、東海岸・西海岸とも、日本食の普及とあいまってますます多くの日本酒ブランドが飲めるようになってきているようです。日本酒は将来、日本より欧米・アジアのほうが主力になるかもしれませんね。

(清酒の輸出では日本名門酒会さんを取り上げるべきでしょうが、たぶん名門酒会ブランドすべてが輸出されているのではないと思って(輸出されているブランドリストがわからないので)今回はリストに載せていません。)



「ブランドや種類がいろいろある、今まで知らなかったブランドにめぐり合える、そんなことが、お酒と、お酒文化の大きな楽しみ、と私的考察で書いていますが、流通サイドでも「バリエーション」を意識した商品を企画されています。(写真の商品には、きた産業のキャップが使われています。)

KK+K²

パッケージデザイン アーカイブ (参考資料)
全国ブランドのシリーズ化戦略の小びん (その2)

味ノマチダヤさんの企画、「プレミアム 300」シリーズ。これだけのブランドがあると、順番に飲みたくなりますね。なお、写真に写っている 20 銘柄のうち、16 銘柄は「7つの切り口で見た清酒ブランド、218 蔵」リストに含まれています。
(表紙の場です。きた産業が壺・キャップを供給させていただいています。)



KK+K² バッケージデザイン アーカイブ (参考資料)
味ノマチダヤのプレミアム 300 @2006/08



やや古くなりますが、昨年末の日経新聞、「NIKKEI プラス1」の記事。このシリーズは過去に焼酎、ワイン、地ビールなども取り上げてきましたが、「多くのブランド」から良いものを見つけ出す、というコンセプトの企画といえますね。たくさんのブランドがある、というのがキーワードだと思います。
(この記事だけに限らず、の話ですが、時代はライトなもの香り高いものから、コクのあるものにシフトしつつあるように感じますね。)

シーナの私的考察

ビジネスとして自社ブランドがより多く売れることも大事だと思いますが、仲間を組んで「複数ブランドでマーケティングする」、「グループで動く」ということも大いに意味があると思います。こんなにいろいろな銘柄がある、というのが日本酒の強みですね。

ヘンな例えかもしれませんが、切手、浮世絵、コイン、骨董品など、世の中にはいろいろなコレクターやマニアがいます。そんなコレクターズアイテムになりえる必須条件は、「いろいろな種類がある事」。ブランドや種類がいろいろある、今まで知らなかったブランドにめぐり合える、そんなことが、お酒と、お酒文化の大きな楽しみの一つだと思います。

(text : Sienna K. Emiri 本稿は、「きた産業 メルマガ・ニュース vol.87 (2006年10月4日記信)」を改定して転載したものです。)

おまけ資料

海外の主な清酒工場

日本の清酒蔵元リストを載せたので、「海外の清酒工場リスト」も作ってみました。完全ではないかもしれませんが、インターネットなどの情報をもとに作ったものです。清酒の国際化の一断面が読み取れますね。

アメリカ U.S.A.	大関 大関	松竹梅 宝酒造	月桂冠 月桂冠	白山 南九州コカ・本坊酒造	桃川 桃川 (青森)	八重垣 ヤエガキ酒造 (兵庫)
中国 China	朝香 中谷酒造 (奈良) 天津中谷酒造(有限)公司	松竹梅 宝酒造、北京宝酒造 醸造有限公司	翁鶴 大石酒造 (大阪) 大石大王酒造(有)限公司	観月梅 甘錦酒造 (愛知) 愛知甘錦酒造(有)限公司	*** ほかにも日本から 進出企業あり	*** ほかにも現地資本 メーカーあり
台湾 Taiwan	清酒 玉泉杯 財団法人玉泉杯酒造(有)限公司 台湾玉泉杯酒造(有)限公司	韓国 Korea	白花 清河 SHI (DOOSAN)	金冠清酒 HITE	ベトナム Vietnam	娘薫、越の一 Hue Foods Company
ブラジル Brasil	東麒麟 キリンビール、 東山醸造加工 (有)	***	オーストラリア Australia	豪酒、つなみ 小西酒造、 サンサムサネ	タイ Thailand	忍 TCC

グレー斜線のセルは現地資本のみ、それ以外は日本資本または日本人が関係しているプロジェクトです。